

木工舎 つきのわ

岡本 雄 さん
おかもと ゆう

由利本荘市平嶋字牛王瀬14
TEL.090-3270-7730
FAX.0184-66-2395
http://azukinotsukinowa.hatenablog.com
E-mail tsukinowa331@gmail.com



〈展示会開催〉

うさと展 in 木工舎つきのわ

同時開催 木のうつわ100展

10月28日(土)、29日(日)
10:00~18:00(29日は16:00まで)
会場/木工舎つきのわギャラリー

限り使い切つてあげたいと思う」
美郷町の旧仙南村出身。大阪芸大でインテリアデザインを学び、卒業後は岐阜県の家具メーカーで働いて木工の基礎を学んだ。そんな半生を見つめ直した出来事が東日本大震災だった。死や人生について考える中、「今やりたいことを思い切り楽しみ、悔いなく生きよう」と決心。趣味で奏でていたアフリカの太鼓について学ぼうと、退職後、ギニアで1カ月過ごした。帰国して2015年、山あいの由利本荘市平嶋に工房「木工舎つきのわ」を構えて以来、木の小物と家具作り、アフリカのリズムに染まる日々を送る。



自然の恵みを生かし切る

一般的に木工は、木の変形や収縮、曲がり、割れを防ぐため、あらかじめ乾燥させた木材を使って加工する。一方、岡本さんは丸太から切り出した生木をそのまま木工旋盤で削り、成形後に乾燥させて器を作る。すると、乾燥の過程で木が変形して、ゆがんだり、曲がったり、独特の形が現れる。「予想外の形になったり、想像以上に良い表情が出てきたり。結果が読めないから面白いです」。

材料として主に使うのは「どうにもならない木」。節だらけで製材所の脇に放置された切れ端、伐採したリンゴの木、道路にはみ出して切られた枝など。行きどころがなく、処分または放置されるそれらを譲り受け、器や小物入れ、ランプシェードなどを作る。たとえ小さな木片でも、オブジェに加工するなどして無駄にしない。そして節や傷み、割れ、樹皮までも「個性」としてデザインに生かす。「何十年、何百年と生きてきた木を無駄にできない。どんなにクセがあってもできる